

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
 分担研究報告書

脊柱靱帯骨化症に関する調査研究

研究分担者 氏名 あべ松昌彦、富永博之、河村一郎、山元拓哉、小宮節郎

所属機関名 鹿児島大学 整形外科

研究要旨 胸椎後縦靱帯骨化症に対する後方除圧固定術後の治療成績

A．研究目的

Instrumentation 併用後方除圧術の
 術後成績の検討

B．研究方法

当院で胸椎後縦靱帯骨化症に対して
 instrumentation 併用胸椎除圧固定術を行
 った11例(男4例 女7例)である。
 平均58.3歳(39～72歳)
 術後経過観察期間 平均1年3ヶ月
 であった。

年齢

術前JOA score

知覚障害出現から手術までの期間

歩行障害出現から手術までの期間

後弯角の改善率

局所骨化角

骨化型(嚙型、平坦型)

骨化占拠率

最大骨化巣の高位

髄内輝度変化(MRI T2WI)

C．研究結果

JOA 改善率は平均38%であり悪化例はな
 かった。多変量解析を行い改善率に影響を
 与える因子として術前JOA score、知覚障
 害出現から手術までの期間、後弯矯正角が
 あげられた。

D．考察、

胸椎OPLLは術後症状悪化することもあり
 治療に難渋する疾患である。後方除圧固定
 術により著明な改善がない場合前方固定を
 行う施設、あるいは悪化した場合前方固定
 を追加する施設があるが、当施設では術後
 悪化例もしくは症状が全く改善しない症例
 は前方固定を追加で行っている。

E．結論

胸椎除圧固定術において後弯矯正(Dekyphosis)の重要性が改めて示唆された。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G．研究発表

1.論文発表 なし

2.学会発表

平成 28 年度第 2 回 脊柱靱帯骨化症に関する調査研究（難治性疾患政策研究事業）後縦靱帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究、合同班会議 臨床研究 37

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む）

1.特許取得

2.実用新案登録

3.その他